



撮影・鳥居/関連記事4、5・11ページ

待ってたぞ「森田みらいバス」!

活動報告

- 10月30～31日 LRT都市サミット(広島市)
- 11月3日 福井市環境展
- 11月11日 交通運輸政策研究会との懇談
- 11月14日 福井市まちづくりフェア
- バイコロジー・シンポジウム2009inふくい
- 11月16-21日 サイクルスクエア(AOSSA)
- 11月20日 ROBA例会 理事会

今後の予定

- 11月21日(土)
中部地区路面電車サミット(富山市)
- 11月28日(土) REF30周年記念講演
- 12月5日(土)
人と環境に優しい交通をめざす全国大会(東京)
- 12月18日(金) ROBA例会 理事会 忘年会

ゆうじんの部屋 書籍紹介

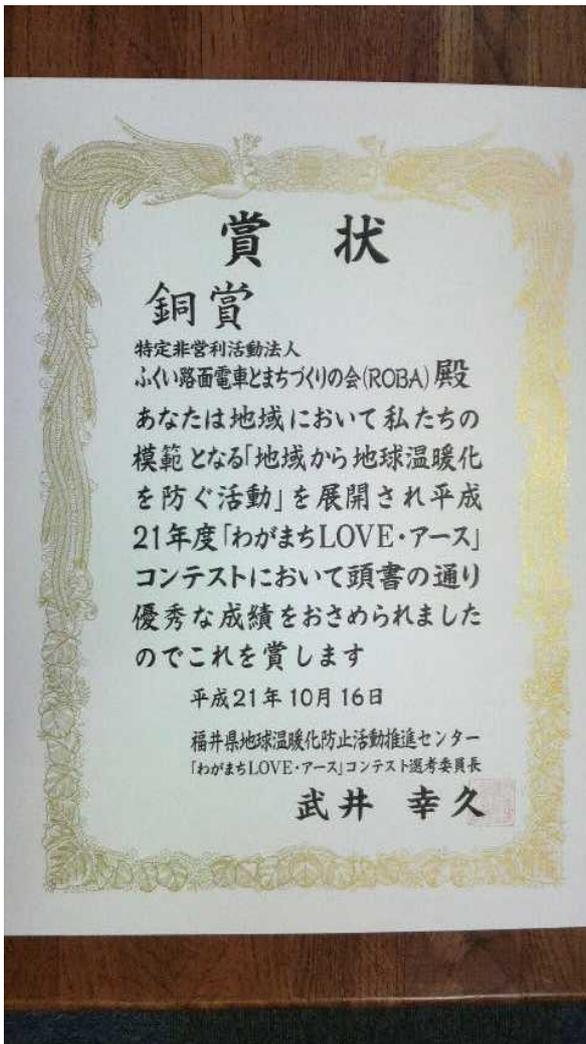
差別と日本人 野中広務・辛淑玉
角川書店 724円+税

被差別部落出身者と在日外国人の筆者が対談しながら、戦後政治を動かしてきた野中広務氏の思想、背景、魅力を明らかにしていく書である。行政が国籍以外の理由で差別的な制度を作ることはいやまずない。しかし、言論、経済活動の自由が尊重されているわが国では、民間人は差別をしたと外にわからない形で差別することも可能である。いわゆる普通の人でも人を差別したくなくても、自然と自分より下のグループを見て自分の地位に喜びを感じる誘惑から逃れられない。

世の中で十分な資源配分が得られていない人が豊かな現代にも存在する。もちろん本人の努力が足りない場合もある。しかし、真に本人の努力が公平に認められる世の中になっているのかどうか常に問い直していくことが必要であり、読みやすい構成でこうした難しい問題に目を開かせてくれる好書だと思う。

東京会員 美濃部 雄人 Minobe Yujin

わがまちLOVEアースコンテストで銅賞に！



銅賞の賞状(左) 表彰式の様子(右上) 司会からインタビューを受ける内田会長(右下)

去る10月16日、午前9時よりAOSSAにて、わがまちLOVEアースコンテスト福井県大会が開催されました。

ROBAは事前に選抜された6団体の一つとして参加し、内田会長が発表しました。6団体が発表した後、会場に集まった100人を超える各団体の関係者などが投票した結果、ROBAは銅賞を獲得しました。金賞はみくにまちづくり協議会でした。

講評をされた先生は、「ROBAは地道に(啓発)活動を行っている。だが、なかなか浸透していないのが現状。しかし、クルマからのCO₂の排出量は全体の1割。政府が打ち出している25%削減を達成するにはクルマに手をつけなければ不可能。それを今日覚えて帰って欲しい。」と、私たちの想いをきっちり代弁すると同時に、ROBAに対して高い評価を下さいました。

銅賞の副賞はピントンエコバッグとピントンマグカップでした。

(清水省吾)

森田地区文化祭用無料バス「森田みらいバス」快走！ 330名乗車！

構想8年・準備に2年を費やした循環バスが走りだしました。森田地区文化祭期間中（10月17日～18日）2日間限定とはいえ、森田地区内を結ぶ循環バスは7年前にROBAに入会した頃からの夢でしたので感慨深いものがあります。

17日早朝の出発式では、循環バス愛称募集の表彰式・テープカットなどが行なわれました。バスには文化委員2人が乗務員として同乗し、将来の循環バス本格運行に向け乗降調査や高齢者の乗降補助などを行ない、バス内でいろいろなご意見をお聞きしました。

バスには仁愛短大祭の相乗効果もあり、2日間で伸び330人の方に乗っていただき、来年も同時開催の声が多くありました。バス内では「こんなバスが走るんやったら自家用車を手離すわ（60代女性）」、「JR森田駅まで30分歩いてるんやけど、早く運行してほしい（20代女性）」、「買い物はバスが迎えに来てくれるで、春江の生協まで行ってるぞー（70代女性）」一方、反省点も多くあり、東・西ルートとも30分以内の運行を計画したのですが、どうしても遅れぎみになり運転手に負担がかかりました。また、今回は森田小学校の出発時間をわかりやすくしたため、JRとの乗り継ぎは良くありませんでした。

今回の反省点を活かし、将来の本格運行に向けての糧としたいと思います。

【文/林照 写真/鳥居・林照】



「森田みらいバス」出発式



みんなの夢を乗せて快走！



一般車両進入禁止！ バスはOK！



電波時計・時刻表・乗降調査表



森田駅前 臨時バス停

私も今回のバス運行に関しては森田地区文化委員会の皆様と構想段階から参画していたため、試験運行とはいえようやく走り出したことに感激致しました。

出発式終了直後の最初の便に乗せていただき、停留所での乗降風景や走行風景を写真に撮りながら東ルートと西ルートをそれぞれ1周しました。今回は運賃が無料であることと、沿線で森田地区文化祭と仁愛女子短大の学園祭が開催されていたことが乗車率向上に寄与しましたが、今後平日も含めた本格運行で有料化した場合でも利用者が定着するためには、JR 森田駅での列車との接続改善が一番の課題だと思います。ただ、残念なことに JR の普通列車は昼間でも等間隔ダイヤではないため、列車との接続を優先するとバスのダイヤが等間隔にならず不便になります。森田駅で多少待っていても退屈しないように駅の改装が実現すれば、バスの利用も促進されて効果的でしょう。駅の改装については、待合室を拡張して展示ギャラリーや売店を設置する等の具体的なアイデアが出されていますので、住民が主体となってぜひとも実現してほしいものです。

循環バス東ルートの一部をエルパまで延長すれば利便性が高まりますが、8号線の渋滞で遅延するリスクが高まります。森田地区からエルパ方面への需要は、デマンドタクシーで対応するのが現実的でしょう。

最後に、今回の試験運行に際して御協力いただいた福井中央観光(株)の皆様やバス停沿線住民の皆様に、この場を借りて厚く御礼申し上げます。

森田のむかしお菓子『よもや』



材料：もち米・水飴・砂糖



最高の乗車率！（大人15人・小人4人）

10月18日（日）【東ルート】

「森田みらいバス」乗車記念に配布



いざ！仁短祭へ / 仁愛短期大学バス停【西ルート】



お待たせー！ / 鈴木歯科前【西ルート】

第7回バスマップサミット in おきなわ

松原光也

10月10日(土)から12日(月)まで「第7回バスマップサミット in おきなわ」が那覇市内で開催されました。主催は「バスマップおきなわ」を発行している「NPO 法人オムニバスデザイン社」と、環境問題に取り組む「気候アクションセンターおきなわ」、「おきなわアジェンダ 21 県民会議」で、沖縄のバス会社大手4社、モノレール、那覇市、観光協会などの後援も受けて開催に至っています。こうした協力体制の構築が充実したイベントにつながっていると感じましたし、お世話いただいた方々に感謝しております。

10日(土)は那覇市内の交通体験ツアーと、夜学、交流会が行われました。アメリカ型の自動車社会と、暑い気候のため、歩く人が少なくなった沖縄の交通事情について、現地および会場で話を聞くことができました。かつて長寿県といわれた沖縄は昆布の消費量が落ち、肉食が増え、歩かなくなったために、メタボ王国になりつつあるそうです。NPO 法人オムニバスデザイン社の谷田貝氏は他県出身なのですが、暑いといっても気温 35 度を超える日は少なく、自動車分担率も沖縄より高い県は多い(もちろん福井県のほうが高い)。実は自動車依存の意識だけが植え付けられており、公共交通に転換する要素は多いと説明していただきました。私も那覇市を分析したときに、人口密度が高く(7723 人/km²) ゆいレールの沿線に都市機能が集中している状況を見て、ゆいレールにバスがうまく接続されれば利用者は増えるとみていたので、その現状を再確認することができました。

夜学や交流会では、各地の方々と新潟以来の再会、県外からの参加者は 30 名を越え、県内参加者とほぼ同数になりました。幹事団体のほか、企業や個人からの活動紹介もありました。モビリティ・マネジメントの展開で活動主体が増えた一方、今年バスマップを発行できた幹事団体が WEB 版の東京と東海を除く 9 団体中、札幌、福井、松江、沖縄だけという厳しい状況でした。また、次回開催地も未開催の幹事団体が欠席している中で決められないということで、メーリングリストなどでの協議に持ち越しということになりました。最後にバスマップの書籍(ROBA からは林博さんが分担執筆)の草稿が紹介され、まもなく刊行されることが発表されました。

11日(日)はバスマップの展示・販売会、カーフリーデー・ジャパン代表の望月真一氏と、バスマップサミットでは恒例の鈴木文彦氏の講演、そして、沖縄在住の方も交えたパネルディスカッションが行われました。この日は県内からも 70 名ほどが参加し、100 名余りの参加となりマップの販売ではのりのりマップが 25 部、りんりんマップが 5 部売れました。また、(財)日本開発構想研究所の西沢氏が GIS マップと My 時刻表をご説明いただきました。那覇市の市民団体や役所のかたが、マップだけでなく時刻表の提供も大切だよと盛り上がりました。パネルディスカッションでは、沖縄のバスの長所と短所を踏まえ、利用促進を図っていくべきという方向性で話が進みました。沖縄のバスは会社が違っても運行系統が同じであれば共通の系統番号を使っており、他の地域ではあまりみられない長所だということを現地の人は当たり前のことと気づいていなかったようです。また、バスの回数券が異なる会社間で共通に使えるのに、同じ会社でも那覇市内路線と市外路線では共通で使えないことなど、お互いに改善点など意見交換することができました。あまりにも話しが盛り上がり、そのまま延長戦に突入し、気が付けば泡盛を飲みながら 24 時寸前まで語り合っていました。

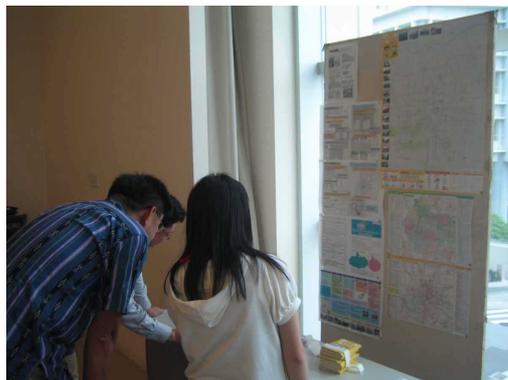
12日(月)は 730 バスツアーで、那覇市を飛び出し沖縄本島の中部まで足を延ばしました。730 車両は沖縄が本土復帰後に、道路が右側通行から左側通行に変更されるのに合わせて日本政府の補助で大量に導入されたバスです。現役で走ることができる車両が 2 台だけで、その 2 台を貸し切って観光ツアーを

実施する企画です。これには地元のバスファンや年配の方も喜び、ほぼ定員の約 70 名が参加されました。バスが発車ただけで歓声があがり、運転手もうれしそう。最初の目的地は村営コミュニティバスが走り始めた読谷（よみたん）村。運転手の粋なはからいで、通常の路線バスと同じコースを走るのに合わせて、車内の料金表とバス停案内も稼動！ 貸切バスなのに、料金表が上がっていく様子一同は大盛り上がり。目的地のバス停の放送が入ると、参加者の子供にボタンを押してと促す。「チン」とチャイムが鳴ると、みんなで拍手喝采！ 初めてバスに乗るといふ子供は得意げで、うれしそうでした。

読谷村ではコミュニティバスに乗車、今年運行したばかりだが1周1時間弱のルートで、やはり利用者は少ないとのこと。小型バス（ポンチョ）2台出動で、約70名乗車は1日の利用者としても最高記録更新だそうです。続いて移設問題で揺れている嘉手納基地が見える「道の駅かでな」を見学、そばにある丘はその名も「安保が見える丘」。昼食はバスマップサミットに協賛いただいた東南植物園、熱帯の植物やフルーツを味わえることで、観光客にも大人気です。最後は石油基地が立地して橋で結ばれた平安座島・伊計島・屋慶名島をめぐる路線バスに乗車。生活の足を守るために県やうるま市が補助して路線を維持しているそうです。こちらもワゴン車2台稼動で、1日の利用者の記録更新！ 730車両が到着するたびに、ツアー参加者以外もカメラ撮影。沖縄各地に旋風を巻き起こしつつ、ツアーが終了しました。サミット開催が沖縄の公共交通にも旋風を巻き起こしてほしいと願っております。



オムニバスデザイン社の谷田員氏が沖縄の交通事情を説明



ROBAの展示とMY時刻表の説明をする西沢氏



730車両とツアー参加者



730ツアーで、貸切バスにもかわからず、運賃が上がり、バス停の案内放送もされる



御菓子御殿の前を通過する読谷村コミュニティバス



海中道路を走る伊計屋慶名線のワゴン車のバス

10月30日(金)、31日(土)に「LRT 都市サミット広島 2009」が行われました。富山市の森市長と広島市の秋葉市長との話合いで、路面電車の現存する17都市の首長に呼びかけて開催が決まったものです。

30日は13時から広島駅の地下広場で首長歓迎セレモニーが行われ、今回参加した11都市の市長・副市長らは貸切となった全低床車両のグリーンムーバーMAXで移動し、秋葉市長の案内で原爆ドームと平和記念公園を見学したあと、献花を捧げました。首長会議では、各都市の路面電車についての取組みが紹介されました。主催都市の広島市のほか、富山市、豊橋市、鹿児島市、長崎市が市長自ら、札幌市、京都市、岡山市、高知市、松山市、熊本市は副市長が参加で、出席していない都市もあります。何か、各都市の路面電車に対する考え方、姿勢が見えてくるようでした。

会議前に「森市長に次は富山ですか?」と訪ねたところ、「そのつもり」との回答。でも次回の路面電車サミットが富山だから、来年はやめてくださいねと伝えたところ、「毎年開催しても首長からの報告は昨年と同じになるだろうから、再来年かな」との回答。その言葉どおり、首長会議で秋葉広島市長から以後の開催についての意見を求められ、隔年開催、各都市持ち回りということと、言い出しっぺなので、「2011年は富山開催」と宣言。富山ではまだまだ大きなイベントが続くようです。一方、福井市から首長などの参加はなく、パネル展にも出展はありませんでした。高岡も同様で、富山市長が残念がっておりました。参加した他都市は路面電車だけでなく、観光もアピールされていたようで、こうしたところで都市間競争の差が生まれてくるのではないのでしょうか。

講演はNHKで鉄道の旅に出演された関口知宏さんで、首長会議の途中から観客は増えはじめ、講演のときには約500名収容の会場が満員でした。芸能人の集客力はすごいもので、独特の歩き方で登場した途端、会場は笑いで包まれました。旅する前の中国のイメージは怖い国家、食の安全も疑問と思っていたが、旅先で助けてくれる人や子供たちに出会うと、ひとつのイメージで決め付けるのは良くない、色々な視点でモノをみるのが大切だとわかり、それがテレビを通して視聴者にも伝わって共感を呼んだのではと語っていました。

レセプションは首長など関係者のみだったため、路面電車愛好支援団体のメンバーで懇親会を臨時開催。私が高岡で視察に来た人を案内するときに、商店街の会長の前で路面電車があるから衰退ぶりを弱めていると説明するようにしていると、さっそく広島でも試してみようという話や、岡さんからは交通基本法の見直しが進められているので、各都市から提案を上げてほしいという依頼もあり、国はLRTをやりたいがっているのに、各地域ではなかなか決断されないという話もありました。福井に縁のある牧野氏ともお会いし、勝山永平寺線のLRT化は県立病院を經由して、軌道を新設するという案もあったが、自民党時代には国からの認可が下りなかったと話をすると、民主党に変わればこれまでの常識は通用せず、再度チャレンジする価値はあると意見が一致しました。国交省からの報告で、LRT化の事例として富山市とともに、えちぜん鉄道と福井鉄道の乗り入れ計画が紹介されたように、国も期待しています。チャンスをつかむには、どこの都市もそうですが、あとは行動に移すのみです。

31日のパネルディスカッションでは富山市長が公共交通を軸としたまちづくりについて、豊橋市長は市民が募金して導入されたLRV(次世代型低床車両)と市民団体の利用促進活動について、鹿児島市長が環境に配慮した市電の緑化軌道の成果について話をされました。市民代表として「路面電車を愛する会」の山根氏は当時広島で地下鉄案が浮上したとき、20年後の広島では人口増加も止まり、路面電車を活用したほうが良いと市長に報告書を提出し、シンポジウムの開催とホームページを通じて市民に訴えた活動を紹介されました。今では秋葉市長と広島電鉄社長の太田氏とも路面電車の将来を話す仲になったと語られ、同時に全国の都市でLRTが導入されない点をもっと市長たちで議論してほしいとの厳しい発言もありました。

広電社長の太田氏は広電が現存した理由として、軌道敷内に自動車の侵入を許さなかったこと、各地の路面

電車を集めて経費節減に努力したことを挙げました。もうひとつ大事な点として、原爆投下の3日後に広電が運行を再開し、広島のみちの象徴として市民に愛されてきたことを伝えていただきました。また、映画美術監督の部谷(へや)京子さんは作品によく路面電車を取り入れるそうですが、被爆者の方にお話をうかがったときのことを教えていただきました。原爆投下後の焼け野原にまっすぐ延びた黒光りするレールを見たとき、きっとこのまちはよみがえると希望を持ってたと語ってくれたそうです。

現在各地域で鉄道の存廃問題が起こっています。台風被害のあとに土砂崩れで埋まったレールがほったらかしにされている光景、地域自らが廃止を選択して列車が来なくなったレールを見て、その地域の人たちは未来に希望が持てるのでしょうか。事故による運行停止にもかかわらず甦ったえちぜん鉄道、九頭竜川の氾濫で被害を受けたにもかかわらず復旧した越美北線、国の規制緩和や会計制度に翻弄されながら地域で維持することを決めた福井鉄道、私は福井のみちに将来の希望が持てる信じています。



首長らに乗せるため、貸切となったグリーンバーMAX



グリーンバーMAXの車両を熱心にチェックする森・富山市長



原爆ドームで秋葉・広島市長の説明を聞く首長ら



平和記念公園の祭壇で献花と祈りを捧げる首長ら



サミット会場での首長会議、各都市の紹介と路面電車の現状を報告

広島駅地下広場でのパネル展、参加各都市の観光PRと路面電車の紹介、子供の路面電車の絵も飾られた

交通運輸政策研究会との交流会報告

内田桂嗣

11月11日(水)芦原温泉「グランディア芳泉」において、交通運輸政策研究会のメンバーとの交流会が行なわれました。ROBA を代表して内田と清水事務局長が参加して意見交換や交流を深めました。来福の目的は、福井県における総合交通政策とその実施状況を把握し今後の政策研究と運動の発展に役立てることです。

一行は11日午後にはえちぜん鉄道を訪問し、運営実態および関係自治体の支援状況などを調査しました。その後17:00～18:00ROBA 清水事務局長の『えちぜん鉄道の再生と福井の交通政策』と題したレポートによる解説と質疑応答が行なわれました。なお、その際、のりのりMAPとりんりんMAPのセットを12セットお買い上げいただきました。会議終了後は宴会場で交流を深めました。12日午前には福井県交通まちづくり課でヒアリングを行なうとのことでした。(一泊二日の行程)

交通運輸政策研究会のメンバーは関西大学安部誠治教授を会長とし立命館大学の土居靖範教授、埼玉大学経済学部安藤陽(あきら)教授など大学の先生や自交総連、国労、航空連、海運海貨労協、全運輸など交通部門の労働組合がメンバーとなって組織されています。

そのうち今回は12名の方が参加されました。



清水さんのパワーポイントでの説明



会議の様子

10月17・18日文化祭にあわせて森田地区無料循環バスを走らすにあたり、もりたネット特別号掲載のため、『広報取材』名入りたすき・腕章でのミッションを与えられました。が、当日はカメラ片手の普段着でした。m(_ _)m

18日朝、東ルート栄保育園10:49に乘るため雨の中、傘をさして家を出ました。子供が通っている見なれた保育園の前に、初めて見る停留所。傘を差して写真を撮ってバスを待っているうちに雨は上がり、雲の間から薄日も差してきました。時間通りにバスが来て乗り込むと、さすがに文化祭へ向かう人でいっぱいでした。乗務員さんも2人いまして、「どこで降りられますか？」と一人一人丁寧に聞いていました。森田駅前を經由して文化祭会場の森田小学校でほとんどの人が降り、乗客に文化委員会より先着100個『よもや菓子』がふるまわれました。よもや菓子とは古くは、柴田勝家が九頭竜川付近で戦っていたところに作られた森田名物のお菓子で、明治天皇の北陸御巡幸の献上品、また森田駅から舟橋を渡って帰る人たちのお土産に人気があり、お店も数軒あったそうです。昭和40年頃からスーパーができ安いお菓子が出回るようになり、手間がかかり採算がとれず作られなくなった逸品です。

森田みらいバスは次に西ルートに替わり文化祭帰りの人が7,8人乗り込んできました。乗客の中に栗森で下りの方が、乗務員さんが「これは西廻りなので、文化祭に一回戻って待ってもらい、次の東廻りの栗森行きに乗ったらどうですか？」と説明があったが、その方は「疲れたし、急いでないんで、乗るときます。」とのこと、すると「それでは1時間ほどのバスの旅を楽しんでください。」と乗務員さんの粋な答えがかえってきました。こういうやり取りは、現代の交通網では見えない光景でした。確かに見慣れている森田の街並みも、バスからの上から目線だと乗務員さんのいうバスの旅気分になります。西ルートも再び地元町内に戻ってきて、顔見知りの子供たちが乗り込んできて、「おっちゃん何してるんや」「文化祭いくんけ」「バス降りたらお菓子もらえるかも」と、たわいも無い話で盛り上がり？最初乗った栄保育園前で降り一周の旅は終わりました。森田の子供たちもが、大いにこのバスを利用してければ、『森田みらいバス』の名前にふさわしい、活気のある森田の未来へ運んでくれるでしょう。

以上





作 / 漆寄 耕次

照ちゃんの気になる風景 part21



撮影日 091112 / 森田八重巻～舟橋

最近めっきり寒くなりましたので、自宅 自転車 六才橋バス停 京福バス 松本小学校バス停 自転車 会社の通勤経路から、自宅 軽トラ 中角駅 えち鉄 越前開発 徒歩 会社の通勤経路に移行中です。11月12日(木)は曇りの天気でしたが、京福バス丸岡線が廃止にならないよう、微力ですが乗車に貢献してきました。

六才橋7時47分発のバスは中型の低床車両が来るので、座ることができないことが多いのですが、この日は従来型のバスが来ました。(うれしいー!)乗車人数は16人。

いつものパターンですと、【六才橋】で福井聾学校の生徒4人・女性2人・私が乗車・2人降車、【森田駅前】【森田八重巻】は通過、【舟橋】で3人ほど乗車、【高木】で通勤の男女2人降車・4人乗車、【福井トヨペット前】で福井聾学校の生徒5人降車・2人乗車、【幾久】で2人乗車、【医師会館前】で女性1人高校生2人降車、【松本小学校】で私降車。

8年前、京福バス春江線が廃止になった時、バスで知り合った春江方面から福井に通勤していた女性は、通勤手段がなくなるということで、退職に追い込まれた。丸岡線もこのままいくと、減便になる可能性がある。乗って残そう丸岡線!丸岡城入場券付き往復割引キップ(土日祭日限定)で1000円というのはいかがでしょうか。

編集後記・・・編集委員より一言

林(変集長)

「先日、会社の同僚とギター合宿を行ないました。課題曲は“あの素晴らしい愛をもう一度”」

内田(発行責任者)

「今月号は記事が豊富、久々のページ数。100号目指してカウントダウン中」

事務局 特定非営利活動法人

ふくい路面電車とまちづくりの会(ROBA)

910-8031

福井市種池1丁目1905-3

TEL: 0776-25-7968

e-mail: roba@mbh.nifty.com

URL: <http://roba.cocolog-nifty.com/roba/home/>